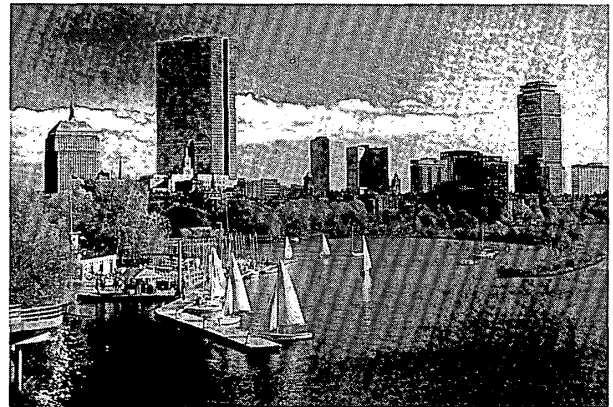


〔海外だより〕 ハーバード大学スケペンス眼研究所

千葉大学医学部眼科学講座 水野谷 智

98年8月より米国マサチューセッツ州ボストンにあるハーバード大学医学部 Schepens Eye Research Institute (SERI) の広瀬竜夫教授の下に medical fellow として留学させて頂いております。在籍しているのはSERIの中でも Schepens Retina Associates (SRA) というクリニック部門の電気生理研究室です。研究の対象は患者さんとその比較のための正常者で、網膜電図や視覚誘発電位を利用した検査を患者さんの診断、治療に役立てております。私の研究テーマは網膜の黄斑部局所網膜電図の臨床応用です。SERI は近代網膜手術の父と呼ばれている眼科医 C. L. Schepens によって1950年に創設されました。C. L. Schepens は現在スミソニアン博物館の収蔵品にもなっている双眼倒像鏡という今では網膜の手術に必須の器械の開発者としても知られています。現在 SERI は眼科単独の研究施設としては国内で最大規模を誇り National Eye Institute (NIH の眼科部門)からの研究費も全米で1, 2の施設だそうです。職員数220, 教員50, fellow40, 技術員50人の大所帯です。これまでに世界30ヶ国以上から眼科研究者が来ています。また最近では日本でも広く使われるようになった走査レーザー検眼鏡がここで開発されています。

我々 fellow はSERI 内の教育委員である Dr. (ボス以外) への研究計画書の提出や数回にわたる面接、各セミナーへの出席、研究成果の発表などが義務になっており、決められた規定をきちんと満たさなければ fellowship をしたと認められないシステムになっています。これは他のハーバード関連の施設の中でもかなり厳しい方ではないかと思えます。この研究所のすぐ隣には同じくハーバード大学関連のマサチューセッツ総合病院があり、その内の Massachusetts Eye Ear Infirmary で広瀬先生が手術をしていますので手術の見学も時々できます。また私の所属する SRA には世界中から患者さんが来ています。ご高齢ながら健在である Dr. Schepens や広瀬先生の患者さんに対する真摯な態度や診察、診断している姿などに強い感銘を受



けました。

研究所はボストンの中心地にありますが私は車で30分程離れた郊外に住んでいます。そこは昔、皇太子妃雅子様が住んでいたことでも知られている町です。朝は少し渋滞がありますが千葉に比べると随分楽です。郊外はアメリカらしく、田舎で自然に恵まれているといった感じです。ここニューイングランド地方はアメリカの中でも紅葉が美しいことで有名で、私の家の周りでも紅葉が見事でした。ボストンの治安は良好で、買い物にも便利な所です。また日本の食料品店やレストランも結構あります。冬は寒さが厳しく雪も時々降ります。外にずっといると凍えてしまいますが、それ以外の季節は湿度も高くなく快適です。またボストンには有名なボストン美術館をはじめ数々の観光名所や歴史的建造物も多くあります。小澤征爾で知られるボストン交響楽団やボストンバレエ、そして本場アメリカのプロスポーツを楽しみたい人にはバスケットボールや野球、アイスホッケー、アメフトなどのチームが地元であり entertainment にも事欠きません。ボストンでの体験は私には大変貴重な財産になると確信しています。

最後になりましたが今回の留学の機会を与えて頂いた千葉大学眼科安達恵美子教授と暖かく送り出して頂いた下都賀総合病院長川村功先生に感謝致します。